

令和5年度 第3回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会

議 事 録

日 時：令和6年3月27日（水） 14時00分～15時00分

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館 研修室

出席委員：高橋大作（札幌彫刻美術館友の会会長）、児玉聡夫（宮の森明和会会長）、國松明日香（彫刻家）、佐藤郁絵（札幌市立大倉山小学校PTA）、紺野高裕（札幌市立三角山小学校校長）、浜部公孝（札幌市市民文化局文化部文化振興課事業調整担当課長）、嶋田雅人（彫刻美術館課長）以上7名

所 管 課：菅原真二（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興係長）

河野貴寛（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興係事務職員）

事 務 局：吉崎元章（本郷新記念札幌彫刻美術館館長）、梅村尚幸（事業係事務職員/学芸員）、柳原潤（業務係事務職員）、白浜玲（同業務係事務職員）

次 第：1 開会

2 議事

（1）令和5年度事業経過報告（12～3月）

(2) 令和 6 年度事業企画状況

(3) その他

当日配付資料：

- ・ 令和 5 年度事業経過報告(12 月～3 月)
- ・ 「本郷新記念札幌彫刻美術館 令和 5 年度入館者アンケート集計(2023 年 12 月～2023 年 2 月)」
- ・ 本郷新記念札幌彫刻美術館 令和 6 年度展覧会スケジュール
- ・ ほかに配付物

かく語りき本郷新「彫刻は詩の塊だ！」展図録

議事内容：

(1) 令和 5 年度事業経過報告(12 月～3 月)

事務局より配付資料に基づき、令和 5 年度事業経過報告（12 月～3 月）

の事業について報告を行った。

(2) 令和 6 年度事業企画状況

事務局より配付資料に基づき、令和 6 年度事業計画状況の説明を行った。

(3) アンケート集計報告

嶋田委員より、配布資料に基づき、アンケート集計（2023 年 12～2024 年 2 月）

の結果報告を行った。

(4) その他

（５）意見交換

国松委員：本郷新の個人美術館が、独自の展示企画や若手アーティストの活躍などで注目を集めていることに感心し、その取り組みを讃える。特に、雪像彫刻展は地域の風物詩となり、若手アーティストのパワーと創造性を感じさせるものである。また、貸館において、美術館の空間や展示施設の活用についても、積極的に行うべきである。さらに、地元の学校との協力についても、札幌西高校などから彫刻家を輩出している点に注目し、関りを持てないか。

吉崎館長：新しい美術の先生が関心を持っており、今年度から美術を専攻する一年生が二日間にわたり美術館を訪れる取り組みが始まった。来年度もこの取り組みが継続される見通しであり、近隣の小学校、中学校、高校からも美術館を活用する動きがあることがうれしい。

紺野委員：本校の３年生が１１月・１２月に本郷新の美術館を訪れ、作品を鑑賞し展示させていただいたことに感謝の意を表す。子供たちが美術作品に興味を持ち、その理解度は不透明であるが、そうした体験は重要である。また、雪像彫刻展や雪まつりでの地域の子供たちへの機会提供や、道銀のレリーフなど、美術の普及とアートへのアクセス向上も重要である。さらに、本郷新の活動や作品について学校での理解を深めることを行っていきたい。

梅村学芸員：普段から「ハロー！ミュージアム」というプログラムを通じて、小学５年生に対して鑑賞教育を行っている。通常、多くの学校は芸術の森や彫刻美術館などへの訪問を通じて、優れた作品を見て自己表現の

トレーニングを行っているが、三角山小学校では３年生から美術館への体験を提供している。この取り組みにより、他の学校よりも早い段階で美術館体験を経験することができ、３年生の子供たちが自分の言葉で作品に対する感想を鋭く表現し、またその能力も高いと感じる。

佐藤委員：今年初めてこのような機会を得て、地域の活動に関わっていることを知り、とても有意義であった。PTA 代表として会議に出席し、他の学校の活動を知ることで、子供たちの成長に貢献する活動について PR することも考えた。PTA だよりを通じて、造形教室などの情報を保護者に提供できるのではないか。来年度からは「すぐーる」を活用して、カラーの写真などを含めた情報を提供する予定。芸術に詳しくは不是が、彫刻作品だけでなく、建築や照明なども含めて子供たちの興味を引く情報を提供したい。「すぐーる」の導入により、大倉山小学校と宮の森中学校では保護者に情報を配信し、アンケート調査や学校に関する情報の閲覧を行っている。PTA だよりは白黒で提供されているため、写真が見つらいという課題があるが、「すぐーる」ではデジタルでの配信が可能であり、興味を引くための活用ができる。年３回の PTA だよりに、造形教室の宣伝や夏休みや冬休みの工作の案内を掲載することで、保護者に情報を提供する計画も可能である。

児玉委員：町内会では、文化の日に在住の方々の手芸品などを含めた展覧会を開催しているが、文化的な行事がまだ少ない。先生や PTA の方と話をし、て、彫刻美術館との連携を通じて、主にお母さん方や学童との交流を増やしたい。町内会の宣伝手段として、年１回の総会などで事業スケ

ジュールを発表し、彫刻美術館の訪問などを含めた月ごとの活動を宣伝することで、町内会としての活動を盛り上げたい。また、町内会活動に参加してもらうために、住民全体に情報を発信し、児童の関心を引くようなイベントに積極的に宣伝を行うことが必要。

佐藤委員：大倉山小学校で札幌市から委託されている家庭教育学級「はな」というのがある。彫刻美術館が地域の様々な講座やワークショップに協力することは可能。彫刻美術館が提供できる講座やワークショップの内容について、学校や地域の担当者と相談してみることを勧める。

浜部委員：札幌市で提供されている市民向けの講座について、地域からリクエストがあり、彫刻美術館でも出前講座を提供することが可能のはず。ただし、具体的にどの学級や学校がその講座を受けるのか、またテーマが絞られているのかどうかは確認が必要。教育学級がその講座を選んでいるのか、あるいは学校単位で行われているのかを確認するために、学校や地域の担当者と相談してみることをお勧めする。

高橋委員：美術館が青少年に対してチャンスを提供し、審美眼を育む重要な役割を果たすべきだ。美術館は、子供たちが彫刻や芸術を通じて感じ、触れ、成長する場であるべきだ。彫刻に触ることで感じる事、その触れる経験が視覚だけでは得られない学びを提供するというのも興味深いアイデアである。また、美術館が地域の誇りとして、地元の作品に焦点を当て、地域の魅力をより広く知らせるべきだ。それに、その作品に関するプログラムを提供することで、その作品の価値や背景をより深く理解し、感じる機会を提供することができる。

嶋田委員：美術館が子供たちとの関わりをより深めるためには、子供たちが主体的に参加し、関与できる仕組みが重要である。

浜部委員：地域の施設が愛されることは非常に重要である。地域の文化や教育の拠点として機能し、地域社会全体の豊かさや活力につながる。子供たちが想像力を養い、さまざまな可能性を見出すことも、将来を豊かにする上で重要。地域の施設が地域住民にとって愛着のある場所として育てられることは、地域コミュニティの一体感を高め、地域の発展に貢献する。貸館の部分で市民に広く開放することも、地域社会との連携を深め、施設の活用を促進する上で重要。地域のニーズや要望に応えることで、施設の利用が拡大し、地域住民の生活の一部となる。これからも地域の皆さんとの協力を通じて、施設がさらに発展していくことを期待する。